

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501155		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム ハートハウスもいわした I 番館		
所在地	札幌市南区南32条西8丁目1-15		
自己評価作成日	平成28年10月18日	評価結果市町村受理日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigvosvoCd=0190501155-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月に開設し、3年目を迎えた2ユニットのグループホームです。藻岩下という自然と人の触れ合いを大切にしている町で、地域の方々のご協力を頂きながら安心して生活しています。重度化しても安心して住んで頂ける設備を整えたグループホームです。看護師が常勤し、浴室はリフト浴、普通浴室があり入浴をゆったりと楽しむ事が出来ます。トイレも工夫がされており、ゆっくりと使用できます。エレベーターも設置しており、ユニット間の行き来が気軽にできます。2階には広いテラスがあり、天気の良い日には食事をしたり、ティータイムを過ごしていただいています。多目的室があり、2ユニットの合同行事やご家族を交えての交流会や、地域の方々にも使ってもらっています。「オレンジカフェ(認知症カフェ)」を平成26年9月から毎月開催し、地域の皆様にも少しずつ広まってきています。地域に根ざしたグループホームを目指すと共に入居者様には安心して自分らしい生活を送って頂くことをモットーに職員は日々自己研鑽に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体である「愛全会」は医療と高齢者介護のトータルサポートとして、老人介護福祉施設を幅広く展開しており、当事業所はその経験と蓄積されたノウハウを基に、更なる地域貢献を目指して平成26年に開設し、3年目を迎えている。藻岩山の麓、自然豊かな藻岩下地区に建てられた2ユニットのグループホームである。開設当初より、地域住民からの期待と支援が寄せられ、運営推進会議には町内会や町づくりセンターから役員の参加を頂き、事業所の運営に積極的に関わって頂いている。事業所も、夏祭りや七夕、文化展、朝市など地域行事に利用者と共に参加し交流を楽しんでいる。事業所は多目的室を地域に活用して頂いたり、市の認証を受けた「オレンジカフェ」を毎月開催して、地域住民に認知症の普及に努めながら、認知症の人と家族を支える環境を提供している。運営母体は、職員のスキル向上を目指して研修体制を整備し、職員も知識や技術の向上に積極的に取り組んでいる。管理者と職員の信頼関係は良好で、常勤の看護師、主治医とのチームケア体制の下、看取りを経験し家族との信頼も深めている。事業所内の設備も充実しており、浴室にはリフト浴の機能やスライド式浴槽を設置している。トイレにも、便器の背面に背もたれが有り、全面には可動式の肘掛けが設置されるなど、利用者が暮らし易い配慮が伺える。職員は常に利用者の事を一番に考え、同じ目線に立ちケアサービスを行っている。更に、事業所の気遣いとして、家庭の延長になる様に、職員はキッチン以外ではエプロンを外し、特に女性職員はスカートを着用してケアサービスを行うなど、介護する側・される側を感じさせない心配りで、利用者が笑顔で安らげる空間を提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくっています。管理者と職員は、その理念を共有し、日々意識してケアにあたっています。	開設時に職員と協議し、利用者が地域の中で自分らしく暮らし続けることを支え、地域との関係性を重視した事業所独自の理念を標榜している。職員は、理念が反映されるケアプランを作成し、理念を核とした一貫性のあるサービス提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会、地域の行事(夏祭り、朝市、文化展、七夕等)、に参加しています。又、地域の方がボランティアで蕎麦打ちに来て下さっています。近隣の理髪店、美容室も利用しています。小学校のPTA資源回収に協力させて頂いています。	利用者は夏祭りや朝市、七夕、文化展など地域活動に参加し、人々との係わりを積極的に持っている。事業所も子供会や町内会の集まりに多目的室を開放している。地域住民の蕎麦打ちのボランティアは、利用者の楽しみとなっている。市の認証を受け「オレンジカフェ」を毎月開催し、地域住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月開催している「オレンジカフェ(認知症カフェ)」で認知症の勉強会を組み入れており、認知症の理解の普及に努めています。又、運営推進会議でも、認知症の勉強会を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故、苦情、日常の様子等の報告を行い、ご家族からはケアに対する要望等忌憚のない意見を出して頂き、地域の方からもご意見を伺い、ケアにつなげています。又、外部評価への取り組みの説明を行っています。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会役員、まちづくりセンター職員、家族、事業室職員の参加を得て、2ヵ月毎に開催している。介護保険や高齢者の薬、事業所の食事、避難訓練実施など、多様な議題を提示し意見交換が行われ、運営に反映させている。全家族に案内し、議事録も配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、行事報告、事故報告、苦情報告等を行い、協力関係を築いています。又、市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	行政との連絡は主として統括本部の事業室で行っている。管理者は市や区の管理者会議に出席し、情報や知識などを共有しながら地域全体の質の向上に取り組んでいる。市の認証を受け「オレンジカフェ」を毎月開催し、認知症の理解の普及に努めている。保健福祉課とは協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束におけるマニュアルを作っています。法人内年間研修計画の中には身体拘束研修を必ず設定し、積極的に参加し、職員が意識を持ってケアにあたっています。玄関は防犯目的で施錠しているが、イベント時は解放し、普段は気軽に入出入りできる環境にしています。	マニュアルを整備し、内部研修及び外部研修にて、身体拘束の弊害について全職員が理解を深め、身体拘束の無いケアを実践している。居室内センサーについては、必要な状況が生じた場合に家族、本人と話し合い設置し、ケアプランに記載している。日中も防犯のために玄関は施錠しているが、外出希望の利用者には見守りながら付き添い自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、法人内で高齢者虐待防止法に関する研修会を開き(不適切ケアも含む)、理解、浸透に努めています。法令遵守に関する研修も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加しています。現在、必要のある入居者様はならず、その都度検討していけるような体制にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で管理者や、職員に気軽に話せる環境を整えています。ご家族、入居者様とも、コミュニケーションがとれ気軽に話せています。又、運営推進会議でも、ご家族様、地域の皆様の意見を頂き、ケアに反映させています。	運営推進会議や年1度の家族アンケート実施など、意見や要望を表出する機会を確保し、運営に反映させている。家族の来訪も多く、職員は利用者、家族の思いを汲み取る努力に日々努めている。家族からの要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有を図っている。毎月発行の事業所便りには、利用者の近況報告欄を設け、各担当者が記載し暮らしぶりを報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所合同の業務カンファレンス、ユニットカンファレンス、ケアカンファレンスを開き、意見や提案を聞く機会を作っています。又、業務中においても、気軽に意見等を話せる環境を整えています。又、人事考課時の自己評価でも本人の気持ちを聞く機会を作っています。	管理者と職員は、日常的に率直に話し合える関係性が築かれている。毎月の事業所合同の業務カンファレンス、ユニットカンファレンス、ケアカンファレンスにて、職員の意見や要望、提案など聞き取り、運営に反映させている。職員は年1度、自己評価する機会が設けられ、管理者はそれに基づいて個人面談を年2回実施し、個々の目標や要望など聞き取り、より良いサービスに反映させている。職員は各係を分担しており、積極的に事業所運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、自己評価をして頂き、個々の努力や実績を把握し、やりがいや向上心につなげています。休み希望等も可能な限り、とって頂き働きやすい環境作りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修の年間計画(新人、中堅、管理者)を立て参加しています。新人職員は、新人研修マニュアルに沿って指導をしています。法人外でも、職員一人ひとりの力量に合わせ、実践者研修、管理者研修、身体拘束防止研修、コンプライアンス研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市や南区の研修に参加し、交流する機会を作っています。職員は、法人内の研修に参加し、他グループホーム、老健、特養、病院の職員と交流を持ちケアの質の向上に努めています。又、法人内では年に1回、学術研究発表会を行っており、他施設の研究成果を学ぶことが出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が事前訪問をし、ご本人、ご家族と面談をして生活状況を把握し不安なこと要望等をお聞きし安心して頂けるように努めています。また、雰囲気慣れていただくため、入居前にお茶会に参加して頂き安心して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、ご本人にどのような生活を送ってほしいかなど、要望等を聞き、信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人、ご家族の思いや、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め、ケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩である事を踏まえ、共に支え合う関係を作っています。買物、料理、食材物品の検品、新聞をたたむ作業など暮らしを共にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共にご本人を支えていく関係づくりに努めています。ご家族と同じ思いでケアを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご姉妹の来訪時には、居室でゆっくりお話をして頂ける環境づくりをしています。馴染みの場所へ散歩や買い物、外出に出掛けています。	地元の利用者は、地域行事に参加することで、親しい友人、知人と再会し交流を楽しんでいる。買い物や外出時には、馴染みのお店に出かけている。家族の協力を得て、墓参りや自宅訪問も行っている。歌謡ショーや音楽教室などで来訪するボランティアの人々とも馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や趣味などを職員が理解し、入居者様同士のコミュニケーションづくりに努めています。食事の席など、楽しんで食べて頂けるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人、ご家族のお話を聞き、フォローしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中での言動により、何を望まれているかを感じ、訴えが少ない方でも行動や表情から考えられる思いをくみ取り把握に努めています。	管理者は、利用者と職員との相性も見極めながら、利用者と触れ合う時間を多く持ち、会話や表情、仕草から思いや意向を汲み取っている。困難な場合は、家族と相談し本人が納得する様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センターシートを用いて、ご家族様に生活歴等をお聞きし、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、一人ひとりの生活のリズム、できる事等を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師等の意見、アイデアを反映させたプランを作っています。また、必要に応じ、随時カンファレンスを開きモニタリングを行い現状に合ったプランにしています。	本人、家族の意向を踏まえ、センター方式のアセスメントを基に、利用者個々の担当職員が中心となり、毎月のケアカンファレンスで職員の意見や気付きを話し合い検討している。モニタリングは毎月行われ、継続や終了など中間評価で詳細に分析し、介護計画は6ヵ月毎に見直されている。緊急時には随時見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアプランの実践結果、気づきを介護記録に記入しています。それをカンファレンスで職員全員が共有し、ケアプラン作りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等を柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の朝市に出かけ、町内の方と挨拶やお話をしたり、野菜や果物を選び買い物を楽しんで頂きました。今年度も秋の文化展に趣味活動の作品を出展し、見学に行き、参加した喜びを感じていただけたらと思っています。又、町内の秋の運動会に応援に行き、町内の一員になって応援する喜びを感じていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関で受診して頂いています。かかりつけ医には、必要に応じてご本人の体調や様子を報告し関係を築きながら適切な医療が受けられるように努めています。	殆どの利用者が運営法人である協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診を受けている。皮膚科、歯科も希望に応じて往診対応している。入居前からのかかりつけ医への受診は、基本家族対応となっている。看護師が常駐しており、更に週1回、訪問看護も利用して、利用者の日々の健康管理及び24時間連絡対応が確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理相談での看護師のアドバイスと合わせ、看護師1名が常駐しており、迅速なアドバイスを受けることができ、適切な受診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療が出来るようにご本人の情報を提供しています。早期に退院できるように、ご家族、医療連携室の方と、情報の交換に努めています。また、職員がお見舞いに行き、安心して頂けるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」として説明を行い理解して頂いています。医療機関との連携体制を構築し、終末期に向けた支援体制を整備している。今年度、1件の看取りを行いました。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人、家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化に応じて、家族の意向を確認しながら、主治医、看護師、職員と話し合いを重ねて方針を共有し、チームで支援している。今年度、看取りを経験し、医師よりターミナルケアに関する研修も受け、終末期に向けた医療連携体制の構築に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で救急救命(AED)講習を行いました。急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応のマニュアルを作成しており、実践につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災のマニュアルを作成しており、防火訓練は年2回(6月、9月)職員全員参加し行っています。6月は、町内会長、副会長、まちづくりセンター所長、ご家族4名参加した防火訓練を行ない、町内会との協力体制が出来ています。又、法人内研修でも災害時の対応について2月に行う予定です。その他、8月、10月に2ユニットカンファレンスで水害、地震のシュミレーションを行いました。	統括本部の防災担当課長(元消防署員)の指導の下に、年2回、夜間想定で避難訓練を実施している。訓練には、地域住民の参加を得て、職員も全員参加で避難方法を身につけられる様に取り組んでいる。定期的に、自然災害対策のシミュレーションも実施している。非常用備蓄品は確保し、避難時持ち出しグッズも用意している。法人研修で災害対策について学ぶ機会を設けており、情報の共有を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての「接遇」研修を受け、常に入居者さま本位のケアを心がけています。また、ご本人の気持ちを大切に考えた言葉かけをしています。	職員は接遇研修を受けている。利用者への呼びかけは基本的に「名字」に「さん」付けで対応している。ケアサービスが職員主体で行われない様に、利用者の人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、洋服を選んで頂いたり、飲み物のご希望をお聞きしたり、入居者様に合わせて声かけをしご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの気分や気持ち、体調に配慮しながら、ご本人のペースを大切に、ご希望にそって過ごして頂けるように努めています。(食事、就寝起床時間、散歩、入浴、買い物、テレビ番組の選択等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、お一人おひとりに合わせた身だしなみやおしゃれ出来るよう声かけをしています。出来ない方にはお手伝いをしています。外出時やイベント時にはお化粧や、ネイルをされる方がいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや、病状に配慮した食事をして頂いています。また、食事の準備や後片付けを職員と一緒に行うことでコミュニケーションがとれ、食事に対する楽しみにつながっています。	献立は本部の管理栄養士が作成しているが、週1度の自主メニューの日は、利用者の希望を取り入れている。誕生日や季節の行事食も職員が工夫を凝らした手料理が並び、利用者に喜ばれている。蕎麦打ちのボランティアの来訪も楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を食べて頂いています。又、お一人おひとりの好みや病状に配慮しています。1日を通じて水分確保できるように表に記入し毎日個人データ表に転記しています。習慣に応じて、パン食や、食事以外の時間に軽食を食べられる方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いています。お一人おひとりの力に応じて、声かけや、見守り、お手伝いをして口腔ケアをしています。定期的に歯科医の口腔ケアを受けている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを考え、職員が、さりげなく声かけお誘いで気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援しています。また、尿意の表現ができない方には、表情や行動から、さりげなくお誘いしています。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄を支援している。殆どの利用者は下着着用で、衛生用品はパット使用者が多い。職員は出来るだけ、オムツを使用しない支援に取り組んでいる。トイレは清潔で、便器の背面に背もたれがあり、前面には可動式のひじ掛けを設置するなど、排泄を促し易いトイレの整備に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排便のリズムを理解したうえで、飲み物の工夫(野菜ジュース、牛乳、ヨーグルト、センナ茶、冷たいお水、ヤクルト、オリゴ糖)や食べ物の工夫(繊維の多い野菜)、運動をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望を聞き入浴して頂いています。入浴剤を選んで頂き、香りや色でリラックスして頂いています。又、身体状況に合わせてリフト浴等も行っています。	週2回を目安に、利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。拒む利用者には、職員やタイミングを変えながら取り組んでいる。浴室には、利用者の身体状況に合わせてリフト浴の機能を備えており、更に3方向から介助可能なスライド式浴槽も設置するなど、スムーズで安全な入浴と利用者の安心感への配慮が伺える支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	たご本人の生活のペースで休息、就寝して頂いています。また、安心して眠れるような声かけや、湯たんぽを使用したり、ホットミルクを飲んで頂いています。又、眠りやすい環境(居室の灯り、温度、湿度、音)を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬について、処方情報などより職員は理解をしています。服薬マニュアルに沿って服薬して頂き、症状に変化が無いか確認を行っています。又、ご自分で服薬しやすいように、薬杯カップを使用して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが好きなことや得意なことが活かせるように声かけし行って頂いています。また、気分転換にもつながっています。(体操、ことわざ、布巾縫い、刺し子、調理、食器洗い、掃除、カラオケ、入浴、読書等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのその日の希望に沿って散歩や買い物に行ったり、近隣の小学校や公園に出掛けています。又ご家族と協力し、自宅訪問や外泊、他施設に入居されているご主人に会いに行ったりしています。地域の方々にはお祭りや文化展、運動会に誘っていただいたり、美容室では送迎のサービスをして頂いています。	外出は、利用者個々の希望に沿える様に、個別対応を主流とした支援を行っている。利用者の体調に配慮しながら、公園までの散歩や買い物、コンサートなどに出かけている。地域行事にも積極的に参加しており、朝市やお祭り、文化展、運動会にも出かけて楽しんでいる。5月には、事業所全体で百合が原にお花見バスツアーを企画し、利用者も職員も気分転換を図っている。天気の良い日は、2階のテラスでお茶を楽しむなど、閉じこもらない暮らしを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している方がほとんどですが、ご自分でお財布を持っている方もいます。職員と一緒に買い物に行ったときは支払いをお願いすることもあり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と協力して声の聴きたいときに気軽に掛けられるように支援しています。ご家族やご友人からの電話やホームから連絡するときはご本人と代わりお話しして頂いています。贈り物が届いた時など、お礼がてら子機を使用し居室等でゆっくりと話して頂く時もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持を心がけ、リビングには花を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしています。職員が業務で発する音、会話等、入居者様に不快感をあたえてしまう音が無いよう配慮しています。	リビングには生花が飾られ、明るく清潔感があり、気になる臭いも無い。アイランド方式キッチンを設置し、利用者と職員が会話をしながら調理作業が進められ、家庭的な雰囲気と温もりが感じられる居場所となっている。トイレも浴室も最新の設備が施され、利用者の安心と快適な暮らしを支える工夫が伺える。訪問時にはクリスマスツリーやグッズが飾られていて、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他に、ソファを配置し、他入居者様と話したり、ゆっくりとテレビが見れるようにしています。又、リビングから離れたところに椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所も作り利用して頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら家具やベッドなど使い慣れたものや好みのもの、使い心地の良いものを持ってきて頂いています。写真や趣味のものを飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫をしています。	居室にはクローゼットが設置され、壁紙やカーテンの色は居室ごとに違うので利用者がそれぞれに個性を発揮した部屋飾りを楽しんでいる。好みの家具やペットなど持ち込み、家族写真やカレンダー、手作りの手芸品などを飾り、その人らしく快適に暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの分かる力を見極め、文字の大きな手作りカレンダーを目に入りやすい場所に設置しています。必要に応じて居室、トイレに名前を付け工夫をし、環境整備をして安全に生活できるようにしています。		